

## 経済社会学会年報XX

### ■大会実行委員長挨拶

柿木健一郎…… 3

### ■第33回全国大会共通論題「リコンシダー・コミュニティ——地域共同体の可能性——」

地域社会の再生—阪神・淡路大震災から学ぶ—  
都市コミュニティ論—コミュニティの崩壊と再生—  
唐沢報告へのコメント  
日本人のライフスタイルと地域社会  
柿木報告へのコメント

山本 明生…… 5  
唐澤 和義…… 15  
高橋善四郎…… 25  
柿木健一郎…… 30  
田村 正勝…… 36

### ■準共通論題

ボランティア学習とコミュニティ意識の育成  
共同体再考—電子ネットワーク社会と公共性—  
福祉国家体制とコミュニティの役割・機能

宗 正詮…… 40  
田中 人…… 43  
藤岡 秀英…… 56

### ■自由論題

公的介護保険導入の課題  
アメリカ社会保障の根底にあるもの—高齢者長期介護問題によせて—  
オーストリアの介護保障と地域福祉  
女性のライフコースの多様化と育児支援  
福祉権の法理—社会的弱者の権利と経済社会学の課題—  
労働と環境に関する規制—これからの産業活動—  
EC環境政策とローカル環境イニシアティブ  
社会的市場経済の理論的再検討  
組織におけるパースペクティブ・シフト

伊東真理子…… 59  
大西 秀典…… 64  
小林 甲一…… 67  
濱本知寿香…… 70  
小田桐 忍…… 78  
有泉はるひ…… 87  
白井陽一郎…… 96  
石田 一之…… 109  
朴 容寛…… 117

### ■自由投稿論文

所有権と平等主義—リバタリアンによる再分配政策批判への原理的反論のために—  
東アジア国際通信事業者の収益構造と企業行動—料金リバランスの行動を中心に—  
コミュニケーションと消費  
オリバー・ウィリアムソンの組織観  
家賃補助制度に関する—考察—ドイツの住宅手当制度を中心に—

松井 暁…… 127  
福永 吉徳…… 135  
今枝 俊哉…… 146  
中川 淳平…… 156  
高倉 博樹…… 161

### ■書評

上村雄彦『カップ・ミュルダール・制度派経済学——一つの経済学批判——』  
恩田守雄『発展の経済社会学』  
J.S.ゴールドステイン、岡田光正訳『世界システムと長期波動論争』  
田村正勝、白井陽一郎『世界システムの「ゆらぎ」の構造』  
中矢俊博『ケンブリッジ経済学研究—マルサス・ケインズ・スラッファ—』  
野尻武敏『第三の道』  
福田敏浩『移行経済の研究—理論と戦略—』  
萬成博、丘海雄編著『現代中国国有企業』  
植草益編『社会的規制の経済学』

塚本 隆夫…… 170  
橋本 昭一…… 171  
永安 幸正…… 173  
恩田 守雄…… 175  
上宮正一郎…… 177  
東條 隆進…… 179  
竹下 公視…… 181  
尾上 正人…… 182  
丸尾 直美…… 184

■全国大会プログラム…… 187

■学会会則…… 189

■編集後記…… 191

# 経済社会学会年報XX

共通論題「リコンシダー・コミュニティ  
——地域共同体の可能性——」

1998

経済社会学会編

現代書館発売

## 編集後記

■書評担当者として、本号は会員の著書を多く取り上げることができましたことを、お礼申し上げます。次号もより多くの会員の著書がとり上げられますように、ご協力をお願いします。(On)

■今回は、西部部会の長尾先生と鉢野先生が、編集作業に加わってくださった。東西合同で仕事ができ、本当によかったと思う。編集作業はギリギリまで遅延し、胸が痛くなった。ともかく今年も暑い夏だった。このお二人の先生のお力添えでなんとか間に合いました。改めてお礼を申し上げます。(T)

■二回に分けてお送りいただきました「年報」の第二校ゲラに、大急ぎで目を通しました。ご覧いただけますように、かなり多数箇所脱字、漢字の変換ミス(?)、記述様式の不統一などがありました。もっと丁寧にみればさらに発見されるかもしれません。個人的印象としては、日数さえあれば、本人、もしくは編集委員による第3校が必要というところだと思います。おそらく毎年のことでしょうか、執筆者に原稿締切日を守っていただくようお願いすることに帰着すると思います。(N)

■本学会の年報は、今年をもって記念すべき20号となりました。本報告も前年(1997年9月)、武庫川女子大学で開催された大会での共通論題「リコンシダー・コミュニティ—地域共同体の可能性」を表題として編集されました。掲載された論文は多様ですが、いずれの論文にもどこかに失われゆくコミュニティ(共同体)への憧憬と、その回復への願望が息づいているように感じられます。

先の大会での野尻武敏会長の発言「こころのふれあいのないものは共同体とはいえない」は、いずれの投稿者の胸中にもある共通の思いを代弁したものでした。共同体の思想こそ、表現形式は異なりますが、故早瀬利雄初代編集委員長が、第1号の「創刊のことば」で述べた「経済のための社会から社会のための経済へ移行」という標語に通じ合うものです。本年報がこれからも、このようなコミュニティ(共同体)を共通の課題として経済学と社会学が助けあう討究の場であることが期待されます。

なお、共通論題の山本明生先生の報告「地域社会の再生—阪神、淡路大震災から学ぶ—」へのコメントは、コメンテーターの先生のご都合で、執筆されませんでした。(Ha)

■自由投稿論文を特に充実させることができました。投稿者はもとより、厳しくも温かいご指導をいただいたレフリーの先生方に、感謝申し上げます。(Ho)

経済社会学会 年報編集委員会

定価3500円+税

土屋武夫(委員長)/長尾周也/鉢野正樹/悪田守雄/後藤隆/保坂俊司/吉尾博和/大西秀典

## 経済社会学会年報 XX

1998年9月12日 初版第1刷発行

編 者 経済社会学会

〒657 神戸市灘区六甲台町2-1 神戸大学経済学部気付  
電話(078)881-1212

編集者代表 土屋武夫

発行者 野尻武敏

発売所 株式会社 現代書館

〒102 東京都千代田区稲田橋3-2-5  
電話(03)3221-1321 振替 00120-3-83725

発 行 所 橋 電 植

印刷・製本 平 河 工 業 社

ISSN 918-3116